

KIS 国際物流ニュース！ (2019年6月号)

国際物流業務に役立つ 最新情報をお届け！

国際事情、行政、システム、導入事例、多彩な情報からピックアップ



農林水産物・食品輸出促進の政府施策、農林水産省の事業

農林水産省内に「農林水産物・食品輸出促進本部(仮称)」が来春(2020年春)新設されるようです。輸出促進のため、輸出相手国との国際交渉、輸出促進策の策定を担い、審査業務については厚生労働省から移管する模様です。同本部は国の輸出の司令塔となり、各省庁との調整役も担うとのこと。

そもそも国内では民間の検査機関が不足しています。輸出環境整備推進事業の実施においては、産地近くで検査の機会を増加させ、輸出申請をよりしやすくし、輸出の拡大につなげようと、地方自治体や民間の検査機関の活用、検査機関の育成策も盛り込まれるそうです。

また、「既存添加物等申請支援事業」「国際的認証資格取得等支援事業」の公募がありました(事業者公募は2019年2月末で受付を終了)。前者は諸外国において、我が国の既存添加物等の使用が認められることにより、これらを含む日本産食品の輸出促進、後者は、対象国・地域が求める検疫等条件への対応(登録園地査察、ハラール認証等)、国際的に通用する認証の取得・更新(ISO22000等)、対象国・地域において他国産との差別化が図られる規格認証の取得・更新(有機JAS認証等)等を行うため必要な経費を補助するものです。

次世代通信 5G 何がどうかわる？

総務省の取組を紹介する資料には、赤ちゃんをだっこしたお母さんが自宅から片手でタブレットを操作し、建設現場の無人建機やドローンを操作するイラストがありました。こういったことが近い将来実現するのでは？と現実的に感じてしまうのは私だけでしょうか。これからの働き方や娯楽の楽しみ方などに変化を実現する基本が通信(5G)です。5Gの説明でよくあるのが「超高速」「超低遅延」「多数同時接続」。さらに4Gとは異なり、それらの要求条件に対応可能な柔軟性も重要要素です。また4Gではスマホやタブレットの接続がビジネス領域の限界でしたが、5Gになると自動車、産業機器、ホームセキュリティ、娯楽など幅広い産業に大いなる変化をもたらす可能性を秘めています。これからの価値創造の源泉は「情報(データ)」。経済的利益を享受するにはその活用です。経済的利益にはコスト削減によるものと売上拡大によるものがあり、大雑把に言うとその内訳は予防・予測、それと新事業とのこと。物流業界の近未来図には、交差点の上空をドローンや空飛ぶ自動車が行き交い、ドライバーは長時間労働から解放、データに基づく予測重視の働き方に変化し、荷主は依頼した貨物のステータスや到着時刻を正確に把握し、交通事故が減るのでより精度が上がります。あらかじめ次の準備に取り掛かることができるので時間を有効利用できるようになります。